Keyword　曖昧さ　曖昧さへの態度　曖昧さへの対処　心理的ウェルビーイング

曖昧さへの態度と曖昧な状況への対処が心理的ウェルビーイングに与える影響

国際文化研究科 国際文化専攻
臨床心理学研究分野 博士前期課程
2024年3月修了

庄嶋 伶菜

主査 久保田進也　**副査** 中富尚宏　樋渡考徳

研究背景

曖昧さは，心理学においては，曖昧さに対する反応の個人差（曖昧さへの態度）をTolerance of Ambiguityという概念で捉えられてきた。当初の曖昧さの研究では，「曖昧さへの非寛容が抑うつに対する素因になっている」ことが報告されている（西村，2007・友野，2015）等，曖昧さには「ネガティブな側面」があることが強調されていた。西村（2007）は，今までの曖昧さに対する態度は，曖昧さに“耐えられる”“耐えられない”という否定的態度を中心とした一次元的な観点から論じられてきたと述べ，２つの肯定的態度と３つの否定的態度を含んだ5つの因子の，多次元構造を持った曖昧さへの態度尺度を作成した。

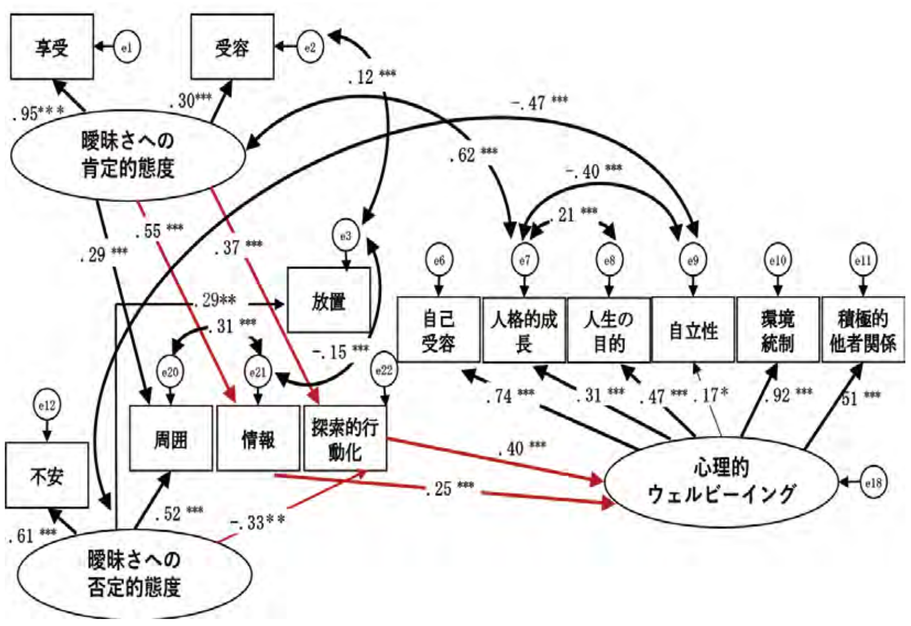
研究目的

曖昧さに対する態度は，多次元的な観点からの研究が重要であり，とりわけ「ポジティブな側面」の研究の蓄積が必要とされている（西村，2007・米田，2012）。しかし，これらの点についての研究は未だ不十分であるのが現状である。

そこで本研究では，大学生・大学院生を対象として，どの曖昧さに対する態度がどのような対処行動を導くのか，その対処行動が心理的ウェルビーイングにどのように影響しているかを検討した。

研究概要

曖昧さへの態度とあいまいな状況への対処および心理的ウェルビーイングの最終的なモデル



曖昧さへを感じる状況の分類

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
判断における曖昧さ	状況や場面が白黒はっきりしない	状況がはっきりしていないとき
		葛藤場面があるとき
	情報に振り回される	情報に左右されているとき
		集団の中で意見がまとまらない
心が定まっていないとき	自己の意思決定の不明瞭さ	自己の方向性や意見の不明確さ
		0から1を考えようとしているとき
		自分なりの意見を持っていないとき
	情緒の不安定さ	情緒的な不安定さを感じるとき
関係性の中での不明瞭さ	自己と他者との相互関係の中で不明瞭さを感じている	相手からの働きかけに対しての曖昧さを感じるとき
		他者に対しての働きかけに曖昧さを感じるとき
		関係性の中での対立や不確実性があるとき
行動の不確実性	するべき行動が不確実でわからないとき	やらないといけないことが多いとき
		やるべき行動が定まらないとき
言語における曖昧さ	抽象的な言葉そのものに曖昧さを感じるとき	抽象的な言葉そのものに曖昧さを感じるとき

成果・まとめ

第一研究の結果から，曖昧さへの肯定的態度は，曖昧さを魅力的なものと評価し関与していくことに楽しみを見出すこと等から，曖昧な状況への情報をつかんでいき，曖昧な状況を整理する対処や，曖昧な状況に対して躊躇せず一歩を踏み出そうとする対処をすることで，心理的ウェルビーイングへと繋がることが示唆された。

第二研究として，曖昧さを感じる状況をKJ法（川喜田，1967）に準じて分類した結果，【判断における曖昧さ】【心が定まっていないとき】【関係性の中での不明瞭さ】【行動の不確実性】【言語における曖昧さ】といった 5つの大カテゴリーに分類された。先行研究の分類と一致している項目もあったが，新たに見出された項目もあった。

指導教員コメント

これまで、曖昧さに関する研究は、メンタルヘルスに対してネガティブな影響を及ぼすという結果が多く見られ、心理的ウェルビーイングなどポジティブな面に関する研究が不足していました。今回の研究からは、曖昧さをポティティブに捉え、楽しみを見いだそうとする肯定的態度が、肯定的な対処につながり、さらに心理的ウェルビーイングにも影響することが明らかになり、曖昧さの中にどのような意味を見つけるかなど、今後の曖昧さ研究の進展に繋がることが期待されます。

久保田進也